

# 琉球大学学術リポジトリ

## 学業達成に関する縦断的研究3： 1年生の学力の規定因

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2007-09-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 嘉数, 朝子, 前原, 武子, 桐木, 建始, 新里, 里春, 名城, 嗣明, 井村, 修, 玉村, 弥堅, 當山, 利道, 玉城, きみ子, 仲地, 重夫, 徳永, 信太郎, Kakazu, Tomoko, Maehara, Takeko, Kiriki, Kenshi, Shinzato, Rishun, Nashiro, Shimei, Tamamura, Yaken, Toyama, Toshimichi, Tamaki, Kimiko, Nakachi, Shigeo, Tokunaga, Shintaro メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/1862">http://hdl.handle.net/20.500.12000/1862</a>

# 学業達成に関する縦断的研究 3

## — 1年生の学力の規定因—

嘉数朝子\* 前原武子\* 桐木建始\* 新里里春\* 名城嗣明\* 井村修\*  
玉村弥堅\*\* 當山利道\*\* 玉城きみ子\*\* 仲地重夫\*\* 徳永信太郎\*\*

A Longitudinal Study of School Achivement— 3

—The factors associated with academic achievement in first grader—

### 目的

著者らは、これまでコンピテンスの発達と学業成績との関連性について追跡研究をおこなってきた。本研究では、小学校1年生の時点での、学力の規定因を検討することを目的とする。従来の学力に関する研究は、小学校高学年を対象にした研究が多く、小学校低学年における先行研究は少ない。

小学校1年の時点において学力を規定すると考えられる要因にはどんなものがあるだろうか。子どもの側の要因としては、発達レベルや知能などが、もちろん大きな影響を及ぼすだろうと予想できる前者については、小学校に入学する前の発達をおさえる意味で、母親の評定した就学前の発達レベルをとりあげる。環境要因としては、特に低学年であれば親の態度や意見は、子どもの発達に大きな影響を与える最も大きな要因であろう。

親の子どもに対する態度や意見が子どもの発達に影響することを検討しようとする研究は、数多くなされてきた。親子関係の心理について展望した小嶋(1970, 1979)によれば、親子関係の研究における変化として、特に親子関係の把握法に関

しては、親子の相互作用、生態学的視点、親子関係という対人状況下に置かれた個人の内面的要因などが強調されるようになってきたと述べている。本研究で関連するのは特に最後の要因についてである。小嶋(1979)は児童観の問題を試論的にとりあげている。児童観とは子どもに対する概念体系、信念体系、価値体系を含み、子どものとりあつかいかたに関する技術体系と相互関連をもつものである。親子関係の把握は、一方的な関係ではなく相互作用により両者が影響を受け合うので独立に扱うのは不可能であるといってもよい。従って、本研究では、両親の家庭教育に対する意見を取り上げる。

学力の対象教科として、本研究では算数と国語をとりあげた。両教科ともに最も基礎的な教科であり、とりわけ算数は系統的な努力を必要とするため、学力規定因も明らかにしやすいと考えられるからである。

### 方法

1. 被験者：大学附属小学校1年生120名（男女同数）とその両親。

2. 入学前発達の測定：30項目（知的特性、社会性、自律性）達成されていたか、否かの2件法で母親によって評定された。達成されていたと答えた項目の合計得点を発達度の測度とした（得点

\*Coll of Educ., Univ of the Ryukyus

\*\*Laboratory School, Coll of Educ., Univ of the Ryukyus.

の最大値は30点)。詳細は前原ら(1987)を参照。

3. 学校生活に関する予想: 18項目。子どもの学校生活における対処行動が成功するか、失敗するか、予測不可能かの3件法で母親に評定させた。本研究では、成功予想反応を合計した成功予想得点のみを測度とした(得点の最大値は18点)。詳細は前原ら(1987)を参照。

4. 両親の家庭教育に関する意見: TK式両親意見診断検査。この検査は7大項目と20の小項目から構成されている(図1参照)。

5. 学力の測定: 日方式標準学力検査1年生用国語と算数。

6. 知能の測定: GIT知能検査1年生用(集団式)。ただし、集団式知能検査では、小学校の低学年においては知能指数を言語性と非言語性に分けることはできない。

7. 調査時期: 1, 2, 3については1987年6月。  
4, 5, 6については1988年3月。

### 結果と考察

#### 1. 学力, 知能, 入学前発達, 学校生活についての母親の成功予想

表1 各測度の平均値と男女比較

	男(SD)	女(SD)	t
I Q	58.52(7.51)	55.74(7.77)	n.s
算数	59.67(9.95)	56.91(9.61)	n.s
国語	62.78(13.05)	64.60(11.67)	n.s
入学前発達	21.31(4.22)	22.91(3.40)	-2.24 p<.05
I 知性	5.97(2.10)	6.78(1.80)	-2.27 p<.05
S 社会性	4.98(1.68)	5.03(1.73)	n.s
A 自律性	5.47(1.16)	5.86(1.12)	n.s
予想	10.45(3.26)	10.62(3.85)	n.s

表1に知能および学力偏差値と入学前発達, 学校生活についての予想の平均値を男女別に示した。知能・学力偏差値においては, 男女間では有意差は認められなかったが, 知能と国語においては女子が, 算数においては男子がそれぞれ得点が高い傾向があった。入学前発達の知性の領域では女子のほうが男子よりも有意に得点が高かった。その他の領域でも同様な傾向がみられたが有意な差はなかった。学校生活についての母親の予想については, 男女間に有意な差はなかった。

表2 各測度間の相互相関

	算数	国語	I Q	発達(1)	発達(S)	発達(A)	期待
算数	—	.78**	.31*	.66**	.04	.20	.27*
国語	.77*	—	.28*	.60**	.20	.12	.42**
I Q	.42**	.29*	—	.38**	.10	.12	.18
発達(1)	.26	.42**	-.06	—	.21	.31*	.43**
	.11	.04	.11	-.09	—	.45**	.63**
	.19	.12	.28	.00	.32*	—	.31*
期待	.27	.06	.16	.02	.37**	.35**	—

上段 男子 下段 女子 p<.10 p<.05 \*\*p<.01

表2に各測度間の相互相関を男女別に示した。男子の場合, 学力は知能, 入学前の発達の知性の領域, 親の成功予想と有意な相関関係にあることが分かる。中でも入学前の知性の領域との相関は高く, 次いで成功予想と国語が.42の相関を示している。次いで知能と入学前の発達の知性との間に.38の相関があった。また親の成功予想と入学前の発達の間にも有意な相関関係があった。算数と国語間の相関は男女共に.70台と高い係数を示していた。

女子では, 学力は知能, 入学前の発達の知性と低い正の有意相関を示していた。知能と入学前の発達は男子とは異なり無相関であった。親の成功予想と学力は, 算数でのみ低い有意な正相関が得られた。入学前の発達と親の成功予想との関係は, 知性では無相関で, 社会性, 自律性との間に低い有意相関があった。

以上の結果から, 知能と学力の関係については男女共に低い正の有意相関があり, 小学校1年生の段階でも学力の規定因として知能が関与していることが分かった。先行研究と比較すると, 狩野ら(1956)の個別式の知能検査と学力との関係の逐年的研究では, 知能指数と学業成績の相関は, 小学校1年生では.46で加齢とともに相関係数は高くなる傾向が認められた。中島(1966)の団体式の知能検査と標準学力検査得点との相関研究では, 1年生において国語では.26, 算数では.43の数値を示し, 狩野らと比較すると低学年での知能と学力の相関は低かった。本研究の相関値は中島の数値と近い。これは測定用具の類似によるものかもしれない。また, 算数のほうが国語よりも知能との相関が高いことも両研究で一致している。

親の成功予想や親の評価した入学前の発達と子どもの学力・知能との相関関係は男女で異なる結果が得られた。前原ら(1988)では、入学前の発達得点の高い群と低い群に分類したところ、得点の高い群の低い群より成功予想が多い傾向が見られた。本研究では、さらに性別に検討したが、男子においては入学前の発達度と親の成功予想との

間には正の有意相関があり前述の全体での結果と同じ傾向があったが、女子では知性の発達度と親の成功予想とは無相関であった。以上の結果から、女子では母親による子どもの入学後の成功予想は、母親の認知した入学前の発達度を反映していないことが示唆される。

表3 両親の意見と学力との相関

項目		男 子				女 子			
		父		母		父		母	
		算 数	国 語	算 数	国 語	算 数	国 語	算 数	国 語
権威的 態度	A1	-.01	.10	.09	.01	-.19	-.14	-.08	-.10
	2	-.00	.13	-.05	.01	-.27*	-.13	-.32*	-.13
	3	-.29	-.28*	-.02	-.05	.04	.17	-.02	-.10
	計	-.12*	-.01	.02	-.01	.18	-.03	-.20	-.15
抑圧的 態度	B1	.05	.01	-.02	-.08	.15	-.06	-.06	-.04
	2	-.10	-.05	-.09	-.01	.08	.13	.09	.06
	3	-.02	-.05	.06	-.02	-.04	.14	.03	.10
	計	.05	-.07	-.08	-.06	-.05	.07	.03	.10
干渉的 態度	C1	.09	.17	.16	.04	-.12	.04	.07	.13
	2	.23	.24	.04	.03	-.02	.19	.09	.13
	3	-.10	-.08	.08	.01	.00	.13	-.09	.03
	計	.12	.16	.12	.03	-.06	.18	.05	.14
愛情の 表現	D1	.10	.10	-.13	-.23	-.08	.09	.12	.11
	2	.04	.04	.09	.06	-.12	.06	.20	.12
	3	-.06	-.06	-.08	-.10	.06	.10	.12	.13
	計	.05	.05	-.00	-.09	-.05	.12	.21	.19
親の不安定	E1	-.10	-.01	-.12	-.16	-.10	-.07	.19	.03
	2	.05	.08	-.08	-.17	-.18	-.03	.04	.18
	3	-.08	-.02	.06	-.09	-.09	-.12	-.12	-.04
	計	-.05	.03	-.07	-.15	-.14	-.06	.04	.08
母親の 社会性	F1	-.11	-.10	-.06	-.07	-.01	-.04	.06	.08
	2	-.10	-.03	-.06	.01	-.17	-.15	.01	-.07
	計	-.19	-.10	-.09	-.05	.18	-.19	.06	.03
両親の 関係	G1	-.04	-.13	.07	-.01	-.12	-.03	.12	.20
	2	.14	.05	.07	.03	.02	-.03	.30*	.17
	3	-.01	-.05	-.15	.20	-.14	-.10	.08	-.00

\*p<.05

### 3. 両親の家庭教育に関する意見と学力との関連

両親の意見と学力との相関を、表3に示した。男子の場合、父親の体罰肯定と算数・国語の成績間に低い有意な逆相関があった。母親の意見と学力との間には有意な相関は得られなかった。このことは、父親のしつけのきびしさが男子の学力には否定的に作用することを示唆したものである。

女子においては、母親の主導性と算数の間に低い有意な正の相関が得られた。また、両親のしつけのきびしさの肯定と算数との間に低い有意な逆相関がみられた。このことは、両親のしつけのきびしさが女子の算数の成績には否定的に作用することを示唆したものである。佐伯(1986)は、動機づけに関するDweck(1986)の展望を紹介し、

子どもの「やる気」を「できるといわれたい」と「少しでもわかる」のやる気の2種類に区別している。子どもを競争状態においたり、他人の評価をしばしば与えて子どもの学習をコントロールすると「できるといわれたい」やる気での学習におちいり、自発性や転移が小さくなり、さらに数学、算数の教科で落ちこぼしが始まりやすい(特に、女子で)と述べている。本研究では、低学年においても親のしつけのきびしさが、算数の成績と負の相関関係にあることが示されたが、今後高学年になるにつれこの傾向は強くなっていくものと予想される。

### 4. 両親の意見の一致と学力との関連

表4 両親の意見の間の相関

父 \ 母	A	B	C	D	E	F	G 1	G 2	G 3
A	.371**	.041	.063	-.023	-.024	.048	.120	.044	.021
B	.328*	.363**	.315*	.190	.185	.120	.191	-.000	.203
C	.174	.220	.316*	.124	.001	.049	.161	.044	.018
D	.196	-.022	.040	.132	-.025	.044	.122	-.130	.049
E	.109	-.053	.082	.045	.139	.054	.059	-.009	.156
F	-.009	-.089	-.066	.010	.050	.238	.212	-.029	.071
G 1	.160	-.018	.136	.045	.045	.121	.295*	.161	.200
G 2	.007	-.079	.061	.142	-.014	.185	.115	.237	.141
G 3	.058	-.031	.023	.080	.126	.178	.163	.140	.402*

\* $p < .01$ , \*\* $p < .001$

両親の意見の間の相関を表4に示した。父親と母親の意見の間の相関は「権威的態度」, 「抑圧的態度」, 「干渉的態度」, 「父親の参加度」, 「両親の一致度」の大項目においては全体的に低い有意な正の相関があった。「愛情の表現」, 「親の不安定」, 「母親の社会性」, 「母親の主導性」の大項目においては両親の意見の間は無相関であった。

次に、算数のと国語の成績について上位1/3の群(H群)と下位1/3の群(L群)に被験者を分類した。H群とL群の間で、両親の意見の一致についてt検定により比較を行った。算数の成績によるH群とL群の父親と母親の意見を男女別に図1, 2, 3, 4に示した。全体的にみて[権威

的態度], [両親の関係]は普通, [干渉的態度], [愛情の表現], [親の不安定]にはやや反対, [抑圧的態度]には大いに反対, 母親の社会性にはだいたい賛成の態度を示しているといえる。

H群において両親間の意見に有意な差がえられたところは以下のとおりである。男子をもつ親では、「攻撃性の抑圧肯定」については、国語・算数で両親間に意見の不一致が見られた(算数:  $t = 2.19, p < .05$ ; 国語:  $t = 2.07, p < .10$ )。すなわち、父親のほうが抑圧的だった。「両親の一致度」でも国語・算数の両教科において両親間の意見が異なる傾向があった(算数:  $t = 2.07$ , 国語:  $t = 1.79, p < .10$ )。すなわち、父親のほうが両親の意見は同じでなくてもよいという意見であっ

被験者・他10名： 学業達成に関する縦断的研究 3-1年生の学力の規定因-

項目	意見の内容	意見の方向(採用)		I おおいに反対					II だいたい反対					III ふ つ う					IV だいたい賛成					V おおいに賛成					七 検
		意見の程度(パーセント)		1	5	10	15	20	25	30	35	40	50	60	65	70	75	80	85	90	95	99							
		父	母																										
A 権威的態度	1. 親の威厳	父 母	以下 8-9 以下 8-9	10	11	12	13	14	15	16	17-18	19	20																
	2. しつけのきびしさ	父 母	以下 8 9 以下 8 9	10	11	12	13	14	15	16	17	18-19	20																
	3. 体 間	父 母	以下 7 8 以下 6 7	8 9	10	11	12	13	14	15	16	17-19	20																
	計	父 母	以下 25 28 以下 22 26	31	34	37	40	43	46	49	52	54	57																
B 抑圧的態度	4. 攻撃性の抑圧	父 母	以下 8-10 以下 8-9	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																
	5. 野蠻さの抑圧	父 母	以下 8-9 以下 9 10	11	12	13	14	15	16	17	18-19	20																	
	6. 性の抑圧	父 母	以下 8 9 以下 8 9	10	11	12	13	14	15	16	17-18	19	20																
	計	父 母	以下 28 31 以下 28 31	34	37	40	43	46	49	52	54	57																	
C 干渉的態度	7. 子どもへの期待	父 母	以下 9 10 以下 9 10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																
	8. 子どもの早教育	父 母	以下 8-9 以下 8 9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20															
	9. 子どもの保護	父 母	以下 6-7 以下 7 8	8 9	10	11	12	13	14	15	16	17-18	19	20															
	計	父 母	以下 28 31 以下 27 30	34	37	40	43	46	49	52	54	57																	
D 愛情の表現	10. 子どもへの献身	父 母	以下 9 10 以下 9 10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																
	11. 子どもとの一体感	父 母	以下 8 9 以下 8-9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20															
	12. 子どもへの関心	父 母	以下 9 10 以下 8 9	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																
	計	父 母	以下 31 32 以下 30 31	34	37	40	43	46	49	52	54	57																	
E 親の不安感	13. 親の自信	父 母	以下 7 8 9 以下 7 8 9	10	11	12	13	14	15	16-17	18	19	20																
	14. 親の不安	父 母	以下 8-9 10 以下 9 10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																
	15. 親の忍耐	父 母	以下 8 9 10 以下 9 10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																
	計	父 母	以下 28 31 以下 28 30	34	37	40	43	46	49	52	54	57																	
F 母親の社会性	16. 家事への専念	父 母	以下 6-7 8 以下 7 8 9	9	10	11	12	13	14	15	16-17	18	19	20															
	17. 社会的活動	父 母	以下 6 7 以下 6 7	8 9	10	11	12	13	14	15	16-17	18	19	20															
	計	父 母	以下 14 15 16 17 以下 14 15 16 17	18 19	20 21	22 23	24 25	26 27	28 29	30	31																		
G 両親の関係	18. 父親の参加度	父 母	以下 9-10 11 以下 9-10 11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																	
	19. 母親の主導性	父 母	以下 7-8 9 以下 8 9	10	11	12	13	14	15	16	17-18	19	20																
	20. 両親の一致度	父 母	以下 8 9 以下 8 9	10	11	12	13	14	15	16	17-18	19	20																

図1 男子のH群(算数)の家庭教育に関する父と母の意見 —父 ———母 \*p<.05 +p<.10

項目	意見の内容	意見の方向(段階)		I おおいに反対				II だいたい反対				III ふつう				IV だいたい賛成				V おおいに賛成		七 検
		意見の程度(パーセント)		1	5	10	15	20	25	30	35	40	50	60	65	70	75	80	85	90	95	
A 権威的 態度	1. 親の威厳	親は威厳をもつほうがよい。	父母	以下 8-9	10	11	12	13	14	15	16	17-18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	2. しつけのきびしさ	しつけはきびしいほうがよい。	父母	以下 8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18-19	20	21	22	23	24	25	26	27
	3. 体罰	しつけは体罰を用いてもよい。	父母	以下 7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17-19	20	21	22	23	24	25	26	27
	計	しつけには威厳が必要である。	父母	以下 21 25 28 31	31 32	33 34	35 36	37 38	39 40	41 42	43 44	45 46	47 48	49 50	51 52	53 54	55 56	57 58	59 60	61 62	63 64	65 66
B 抑圧的 態度	4. 攻撃性の抑圧	子どもはあらそわないようにしつけるべきだ。	父母	以下 8-9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
	5. 野蠻さの抑圧	子どもの野蠻さは禁止すべきだ。	父母	以下 8-9	10	11	12	13	14	15	16	17	18-19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	6. 性の抑圧	性に関することはおさえるべきだ。	父母	以下 8	9	10	11	12	13	14	15	16	17-18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	計	子どもの本能的衝動的傾向はおさえるべきだ。	父母	以下 21 28 31 32	33 34	35 36	37 38	39 40	41 42	43 44	45 46	47 48	49 50	51 52	53 54	55 56	57 58	59 60	61 62	63 64	65 66	
C 干渉的 態度	7. 子どもへの期待	子どもには高い期待をもつべきだ。	父母	以下 9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	8. 子どもの早教育	子どもは早教育するのがよい。	父母	以下 8-9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	9. 子どもへの保護	子どもには失敗経験をさせないように親が気をつけるべきだ。	父母	以下 6-7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17-18	19	20	21	22	23	24	25	26
	計	子どもへの教育的関心は強いほどよい。	父母	以下 21 28 31 32	33 34	35 36	37 38	39 40	41 42	43 44	45 46	47 48	49 50	51 52	53 54	55 56	57 58	59 60	61 62	63 64	65 66	
D 愛情の 表現	10. 子どもへの献身	親は子どものためなら犠牲になってもよい。	父母	以下 9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	11. 子どもとの一体感	親と子は一体であるのがよい。	父母	以下 8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	12. 子どもへの関心	子どもへの関心はうすくはない。	父母	以下 8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	計	子どもへの愛情はこまやかなほどよい。	父母	以下 21 31 32	33 34	35 36	37 38	39 40	41 42	43 44	45 46	47 48	49 50	51 52	53 54	55 56	57 58	59 60	61 62	63 64	65 66	
E 親の 不安感	13. 親の自信	親は子どもを育てるのに自信がないものだ。	父母	以下 7	8	9	10	11	12	13	14	15	16-17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	14. 親の不安	親は子どもについて不安をもつものだ。	父母	以下 8-9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	15. 親の忍耐	親は子どものことで感情的になるものだ。	父母	以下 8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	計	親は子どもを育てることに不安や心配をもつものだ。	父母	以下 21 28 31 32	33 34	35 36	37 38	39 40	41 42	43 44	45 46	47 48	49 50	51 52	53 54	55 56	57 58	59 60	61 62	63 64	65 66	
F 母親の 社会的 性	16. 家事への専念	母親は家庭のことだけしていればよい。	父母	以下 6-7	8	9	10	11	12	13	14	15	16-17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	17. 社会的活動	母親はあまり外に出て活躍しないほうがよい。	父母	以下 6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	計	母親は家において社会的活動はしないほうがよい。	父母	以下 14 15 16 17	18 19	20 21	22 23	24 25	26 27	28 29	30 31	32 33	34 35	36 37	38 39	40 41	42 43	44 45	46 47	48 49	50 51	52 53
G 両親の 関係	18. 父親の参加度	家庭教育には父親もおおいに参加すべきだ。	父母	以下 9-10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	19. 母親の主導性	家の中のことは母親中心がよい。	父母	以下 7-8	9	10	11	12	13	14	15	16	17-18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	20. 両親の一致度	両親のしつけの意見は同じでなくてもよい。	父母	以下 8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26

図2 女子のH群(算数)の家庭教育に関する父と母の意見 —父— —母— \*p<.05

項目	意見の方向(段階) 意見の程度(パーセンタイル) 意見の内容	I おおいに反対		II だいたい反対				III ふ つ う				IV だいたい賛成				V おおいに賛成			七 検
		1	5 10 15	20 25 30 35	40 50 60 65	70 75 80 85	90 95 99												
A 権威的 態度	1. 親の威厳	親は威厳をもつほうがよい。	父母 以下 8~9 以上 8-9	10	11	12	13 14	15 16	17~18	19 以上									
	2. しつけのきびしさ	しつけはきびしいほうがよい。	父母 以下 8 9 以上 8 9 10	10	11	12	13 14	15 16	17 18~19	20									
	3. 体 罰	しつけは体罰を用いてもよい。	父母 以下 7 8 以上 6 7-8 9	10	11	12 13	14 15	16 17	18 17~18	19 以上									
	計	しつけには威厳が必要である。	父母 以下 23 25 28 以上 22 25 28	31 32	33 34	35 36 37	38 39 40	41 42 43	44 45 46	47 48 49	50 51 52	53 54							
B 抑圧的 態度	4. 攻撃性の抑圧	子どもはあらそわないようにしつけるべきだ。	父母 以下 8~9 以上 8-9	10	11	12	13 14 15	16 17	18 19	20									
	5. 野蠻さの抑圧	子どもの野蠻さは禁止すべきだ。	父母 以下 8~9 以上 9 10 11	12	13	14 15	16	17 18~19	20										
	6. 性 の 抑 圧	性に関することはおさえるべきだ。	父母 以下 8 9 以上 8 9	10	11	12 13	14 15	16 17~18	19 以上										
	計	子どもの本能的衝動的傾向はおさえるべきだ。	父母 以下 21 23 31 以上 22 28 31	34 35	36 37	38 39	40 41	42 43 44	45 46 47	48 49 50	51 52	53 54							
C 干渉的 態度	7. 子どもへの期待	子どもには高い期待をもつべきだ。	父母 以下 9 10 11 以上 9 10 11	12	13 14	15 16	17 18	19 18	19 以上										
	8. 子どもの早教育	子どもは早教育するのがよい。	父母 以下 8~9 以上 8 9 10	11	12	13 14	15 16	17 18	19 18	19 以上									
	9. 子どもの保護	子どもには失敗経験をさせないように親が気をつけるべきだ。	父母 以下 6~7 以上 7 8	9	10	11 12 13	14 15	16 17~18	19 以上										
	計	子どもへの教育的関心は強いほどよい。	父母 以下 21 23 31 以上 26 28 30 33	32 33 34	35 36 37	38 39 40	41 42 43	44 45 46	47 48 49	50 51 52	53 54								
D 愛情の 表現	10. 子どもへの献身	親は子どものためなら犠牲になってもよい。	父母 以下 9 10 以上 9 10	11	12	13 14	15 16	17 18	19 18	19 以上									
	11. 子どもとの体感	親と子は一体感であるのがよい。	父母 以下 8-9 以上 8 9 10	11	12	13 14	15 16	17 18	19 18	19 以上									
	12. 子どもへの関心	子どもへの関心はうすくてはいけない。	父母 以下 9 10 以上 8 9 10	11	12 13	14 15	16 17	18 19	20 17	18 以上									
	計	子どもへの愛情はこまやかなほどよい。	父母 以下 31 32 以上 29 31 33 35	34 35	36 37	38 39 40	41 42 43	44 45 46	47 48 49	50 51 52	53 54								
E 親の不安 感	13. 親の自信	親は子どもを育てるのに自信がないものだ。	父母 以下 7 8 9 以上 7 8 9	10	11 12	13 14	15 16	17 18	19 18	19 以上									
	14. 親の不安	親は子どもについて不安をもつものだ。	父母 以下 8~9 10 11 以上 9 10 11	12	13 14	15 16	17 18	19 18	19 以上										
	15. 親の忍耐	親は子どものことで感情的になるものだ。	父母 以下 8 9 10 以上 9 10	11	12 13	14 15	16 17	18 19	20 17	18 以上									
	計	親は子どもを育てること に不安や心配をもつものだ。	父母 以下 21 23 31 以上 26 28 30 33	34 35	36 37	38 39 40	41 42 43	44 45 46	47 48 49	50 51 52	53 54								
F 母親の 社会性	16. 家事への専念	母親は家庭のことだけして いれればよい。	父母 以下 8~7 以上 7 8 9	10	11 12	13 14	15 16	17 18	19 18	19 以上									
	17. 社会的活動	母親はあまり外に出て活 躍しないほうがよい。	父母 以下 6 7 以上 6 7	8	9 10	11 12	13 14	15 16	17 18	19 18	19 以上								
	計	母親は家において社会的活 動はしないほうがよい。	父母 以下 14 15 16 17 以上 13 14 15 16 17	18 19	20 21	22 23	24 25	26 27 28 29	30 31 32 33	34 35									
G 両親の 関係	18. 父親の参加度	家庭教育には父親もおお いに参加すべきだ。	父母 以下 9~10 以上 9-10 11	12	13 14	15 16	17 18	19 18	19 以上										
	19. 母親の主導性	家の中のことは母親中心 がよい。	父母 以下 7~8 以上 8 9	10	11 12	13 14	15 16	17 18	19 18	19 以上									
	20. 両親の一致度	両親のしつけの意見は同 じてなくてもよい。	父母 以下 8 9 以上 8 9	10	11 12	13 14	15 16	17 18	19 18	19 以上									

図3 男子のL群(算数)の家庭教育に関する父と母の意見。 —父 ———母 \*p<.05 +p<.10



項目	意見の内容	意見の方向(段階)		I おおいに反対				II だいたい反対				III ふつう				IV だいたい賛成				V おおいに賛成			七検
		意見の程度(パーセント)		1	5	10	15	20	25	30	35	40	50	60	65	70	75	80	85	90	95	99	
A 権威的態度	1. 親の威厳	親は威厳をもつほうがよい。	父母	以下 8-9	10			11	12		13	14		15	16			17-18	19	以上			
	2. しつけのきびしさ	しつけはきびしいほうがよい。	父母	以下 8	9	10		11		12	13	14		15	16			17	18-19	20			
	3. 体罰	しつけは体罰を用いてもよい。	父母	以下 6	7-8	9		10	11		12	13		14	15			16	17-18	19	20		
	計	しつけには威厳が必要である。	父母	以下 23 25 28	31			34	35		37 38 40	41		43	46			49 50 52	54	以上			
B 抑圧的態度	4. 攻撃性の抑圧	子どもはあらそわないようにしつけるべきだ。	父母	以下 8-9	10			11	12		13	14	15	16			17	18-19	20				
	5. 野蛮さの抑圧	子どもの野蛮さは禁止すべきだ。	父母	以下 8-9	10	11		12		13	14	15	16	17			18-19	20					
	6. 性の抑圧	性に関することはおさえるべきだ。	父母	以下 8	9			10	11		12	13		14	15			16	17-18	19	以上		
	計	子どもの本能的衝動的傾向はおさえるべきだ。	父母	以下 28 28 31	32			34 35	37 38		40	41		43	46			49 50 52	54	以上			
C 干渉的態度	7. 子どもへの期待	子どもには高い期待をもつべきだ。	父母	以下 9	10	11		12		13	14		15	16			17	18	19	以上			
	8. 子どもの早教育	子どもは早教育するのがよい。	父母	以下 8-9	10	11		12		13	14		15	16			17	18	19	以上			
	9. 子どもの保護	子どもには失敗経験をさせないように親が気を付けるべきだ。	父母	以下 8-7	8			9	10		11	12	13	14	15			16	17-18	19	以上		
	計	子どもへの教育的関心は強いほどよい。	父母	以下 28 28 31	32			34 35	37 38		40	41		43	46			49 50 52	54	以上			
D 愛情の表現	10. 子どもへの献身	親は子どものためなら犠牲になってもよい。	父母	以下 9	10			11	12		13	14		15	16			17	18-19	20			
	11. 子どもとの一体感	親と子は一体であるのがよい。	父母	以下 8	9			10	11		12	13		14	15			16	17	18	19		
	12. 子どもへの関心	子どもへの関心はうすくはないがよい。	父母	以下 8	9	10		11		12	13		14	15				16	17	18	19		
	計	子どもへの愛情はこまやかなほどよい。	父母	以下 29 31	32			34 35	37 38		40	41		43	46			49 50 52	54	以上			
E 親の不安感	13. 親の自信	親は子どもを育てるのに自信がないものだ。	父母	以下 7	8	9		10		11	12		13	14			15	16-17	18	19	以上		
	14. 親の不安	親は子どもについて不安をもつものだ。	父母	以下 8-9	10	11		12		13	14	15	16	17			18	19	20				
	15. 親の忍耐	親は子どものことで感情的になるものだ。	父母	以下 8	9	10		11		12	13	14		15	16			17	18	19	以上		
	計	親は子どもを育てることに不安や心配をもつものだ。	父母	以下 28 28 30	31			34 35	37 38		40	41		43	46			49 50 52	54	以上			
F 母親の社会的性	16. 家事への専念	母親は家庭のことだけしていればよい。	父母	以下 6-7	8	9		10		11	12		13	14			15	16-17	18	19	以上		
	17. 社会的活動	母親はあまり外に出て活躍しないほうがよい。	父母	以下 6	7	8		9		10	11		12	13			14	15	16	17	18		
	計	母親は家において社会的活動はしないほうがよい。	父母	以下 14 15 16	17			18 19		20 21	22	23		24 25	26			28 29	30	31	32		
G 両親の関係	18. 父親の参加度	家庭教育には父親もおおいに参加すべきだ。	父母	以下 9-10	11			12		13	14		15	16			17-18	19	20				
	19. 母親の主導性	家の中のことは母親中心がよい。	父母	以下 7-8	9			10	11		12	13		14	15			16	17	18	19		
	20. 両親の一致度	両親のしつけの意見は同じでなくてもよい。	父母	以下 8	9			10	11		12	13		14	15			16	17-18	19	20		

図4 女子のL群(算数)の家庭教育に関する父と母の意見 —父— ……母 \*p<.05

た。「子どもの保護」については国語で両親間の意見が異なる傾向があり ( $t=2.05, p<.10$ ) , 父親のほうが保護的であるべきだという意見であった。「親の不安」については国語で両親間に差があり, 父親のほうが肯定的な傾向があった。「母親の主導性」については, 国語で差があり父親のほうが肯定的な傾向であった ( $t=2.02, p<.10$ ) , 女子をもつ親では, 国語・算数において「体罰肯定」で有意差があり (算数:  $t=3.16$ , 国語:  $t=2.72, <p.05$ ) , 父親がより肯定的であった。「父親の参加度」についても両科目で差が (算数:  $t=3.16$ , 国語:  $t=2.72, p<.05$ ) , 母親のほうが父親も家庭教育に参加すべきという意見に肯定的であった。「子どもとの一体感」では, 算数で差があり母親のほうがより肯定的であった。 ( $t=2.89, p<.05$ )。「親の自信」は算数で差があり, 母親のほうが自信がないことに肯定的であり ( $t=2.52, p<.05$ ) 。

L群では, 両親の意見に有意な差がみられたところは以下の項目であった。男子をもつ親の場合, 算数・国語で「母親の社会性」で父親のほうが母親は社会的活動をしないほうがよいという意見に肯定的であり (算数:  $t=2.14$ , 国語:  $t=2.82, p<.05$ )。「家事への専念」でも父親のほうが肯定的であった (算数:  $t=2.08, p<.05$ ; 国語:  $t=2.90, p<.01$ )。女子の親の場合は, 算数の「両親の一致度」で父親のほうが両親の意見は一致していなくてもよいとする意見であった ( $t=2.28, p<.05$ )。

以上の結果から, H群では両親の意見の不一致が9項目でみられ, 例えば権威的・抑圧的意見では父親はより肯定的であるのに対し, 母親はそれを補うといったように父と母の意見が相補的な関係であることが示唆された。L群での両親の不一致は3項目でみられ, 領域は母親の社会性と両親の関係の2大項目に限られており, 男子をもつ親の場合はいずれも父親が母親の社会性を認めない意見に肯定的であった。権威主義的な父親をもつ男子は達成動機が低いという研究結果と関連するものと思われる。

## ま と め

本研究では, 小学校1年生の時点での学力の規定因として, 知能入学前の発達度, 親の学校生活に関する親の成功予想, 家庭教育に関する両親の意見の要因を検討した。本研究の結果, 知能や知的な発達は学力を大きく規定することが確認された。

両親の意見と学力の間には一貫した明確な関係は見いだすことができず, 権威的, 抑圧的しつけが学力にマイナスの影響を与えること, 特に女子でそれらの影響力に敏感であることが示唆されるにとどまった。両親の間の意見の不一致は, ただちに否定的な影響力を持つものではなく, むしろ父親のきびしさや母親の不安を相補う, すなわち両親が相補的な役割分担を果たしていることが示唆された。

## 参 考 文 献

- Dweck.C 1986 Motivational processes affecting leaning. *American Psychologist*, 41, 1040-1048.
- 狩野広之, 他 1956 知能指数と学業成績との関係についての逐年的研究 日本心理学会20回論文集, p225.
- 小嶋秀夫 1970 講座親子関係の理解 (一), (二) 児童心理, 24, 1644-1611, 1812-1829.
- 小嶋秀夫 1979 講座親子関係の理解 (一), (二) 児童心理33 938-955, 1126-1143.
- 前原武子, 嘉数朝子, 桐木建始, 新里里春, 名城嗣明, 玉村弥堅, 當山利道, 玉城きみ子, 仲地重夫, 徳永信太郎, 1988 学業達成に関する縦断的研究1-親が認知した児童の入学前発達と学校生活能力- 琉球大学教育学部紀要, 32集, 第2部, 269-2
- 前原武子, 嘉数朝子, 桐木建始, 新里里春, 名城嗣明, 1988 学業達成に関する縦断的研究(2)-1年生のlocus of controlと学力- 九州心理学会49回論文集, (印刷中)
- 中島功 1966 知能の発達に関する追跡的研究(2)-知能と学力との相関- 日本心理学会30回論文集, p231.
- 佐伯胖 1986 教育心理学をおもしろくするには 教育心理学年報26集, 161-171.